



国道付け替え仮設道路工事が始まったリバーサイト住宅跡地



誰も来ない木之本中縦高架下公園で時を刻む時計



田植えが終わった木之本棚田



流量の少なさを象徴する流されない「生」の字



新旧入れ替えを待つ南部橋



橋梁が架かり道路がつけ変わると、今の風景も忘れられる。

豊水時期に入り青葉台地区の瀬変え工事は中断した。川の中の道路工事も中断した。しかし 川に関係のない部分の国道付け替え工事は佳境にはいった。全住民が移転して無人になったリバーサイト住宅でも仮設道路工事が始まり、リバーサイト住宅へ向かう坂道も工事区域に組み入れられ、かつての住宅街へ向かう道路はなくなり無人の住宅街は草で覆われ、今も時を刻み続ける木之本中縦高架下公園の電気時計だけが、ここに多くの暮らしがあったことを語り続けている。もうここで子供たちの歓声が聞こえてくることはない。田植えが終わった木之本棚田で畑の世話する人に話しかけたら、見ず知らずの人から声掛けられ「何しに来たのか？」不審な目で見られた。「綺麗な棚田見に来た」と返事したところから打ち解けて話が弾む。春のレンゲに始まり田植え、稲穂が色づく頃に彼岸花に縁取られた素晴らしい田んぼ、こんな風景を大切にしたい。ハイカーにも楽しんでもらえれば嬉しいが、ハイカーは田んぼなんか一向に見向きもせず通り過ぎてしまうとチョッピリ寂しげであった。リバーサイト住宅跡地の話題に元の自然に戻ってくれて里の風景と一体化できたらなああと答えた。しかし こんことしてられるのは自分の代で終わりやろうなとつぶやかれた。安全で便利になるのは良いことだと思えても、失われていく景観に惜別の念が湧いてくる。